

そうだ！

「自然エネルギーによる街路灯」を 被災地の公園に寄贈しよう

カタチに残る 震災支援金 の使いみち

せっかく集めた被災地支援金。
もちろん有効に活用したい、そして喜ばれたい。

時間の経過とともに刻々と変化する現地ニーズ。
今、被災地で本当に望まれているのはどんなものだろう？

その中で、カタチとして残せるものはないだろうか？
被災地の皆さんから親しまれ、実用的で、シンボリック、なもの。

太陽光&風力ハイブリッド型発電街路灯 WINPRO

<http://winpro.iki-sangyo.co.jp/>

は、まさにそんなもののひとつだ。

震災直後、真っ暗な町並みにもし1か所でも灯りがともっていたら・・・。

節電の夏、間引き照明で暗い公園を歩く女性にとって、
節電に左右されない自然エネルギーの灯りがあったらどんなに心強かっただろう・・・。

WINPROは独立電源方式。
2個のバッテリーにより5日間の無風、
無光状態が続いても大丈夫。

災害時の「希望のともしび」「安心のともしび」として、市民の注目を集める
ことでしよう。

通常の財政支出を極端に減らされている
当該自治体にとって、WINPROの
寄贈は実にありがたいお話。

そんな自治体と貴団体のコーディネート
役を喜んでお引き受けいたします。

